# 宮司プレス　第二百十二号

彦島八幡宮　宮司ニュース
発行者　彦島八幡宮
宮司　柴田　宜夫
発　行　令和六年　四月十九日

◇宮司の柴田です。境内の桜も、とうとう葉桜になってしまいました。今年の桜は、開花が遅かったようですが、雨風にもたえて、よく持ちこたえました。季節の移ろいは、仁義でなりたっています。いつまでも咲いていて欲しいと願う気持ち、「思いやり、いつくしみ」、前号の宮司プレスにも記載した、「惻隠の情」、「仁」です。しかしながら、今を盛りと咲き匂う桜も、自ら、花びらを散りつくさないと、新緑になりませんので、夏が来ない、来るべき夏のために、自分を犠牲にしている、「義」という、麗しい行いなのです。桜が咲く春という季節は、惜しまれながらも、来るべき夏のために、自ら犠牲になり、忠義を尽くしているのでありまして、まさしく、季節の移ろいは、「仁義」なのです。近代詩人の佐藤春夫さんの詩に、「花を見ていみじと思わばさて生きよ　昨日今日よし味気なくとも」と書かれています。美しく咲いている花にも、短いながらも潔い生き方、人生があるのですから、大自然の一員にすぎない私共も、「元気をだして生きていこうよ」という応援歌のように思えます。

◇さて、さわやかな心地よい、晩春の季節となりました。お手紙の頭語、謹啓や拝啓に続けての時節のあいさつとして、「麗春の候、麗春のみぎり」を用います。四月下旬から五月上旬まで使われる時候のあいさつです。「麗春」とは、春から初夏に赤やピンクの鮮やかな花を咲かせる、「ヒナゲシ」のことなのだそうですが、みなさん、御存知でしたか。

◇裏面に四月の祭典風景の写真を掲載しています。過日の四月十三日は、関門海峡に浮かぶ島、船島（通称＝巌流島、神社名は舟を使用）におきまして、舟島神社例祭ならびに、巌流佐々木小次郎剣客大人命の慰霊祭を御奉仕申し上げました。彦島自治連合会二見会長主催の行事で、例祭と慰霊祭をあわせて「舟島祭」と称しています。四十年近く途絶えていたお祭りが、平成十五年に復活、コロナ禍でも欠かさず、斎行されました。　特に、令和二年は、二見会長と私二人で御奉仕したこともありました。最初に、船島の守護神である「地神龍神様」をまつる、舟島神社の大前にて例祭を斎行、終了後は、慰霊碑の前に場所を移して、慰霊祭を斎行しました。昭和四十八年くらいまでは、この船島には、人が住んでいました。その先住された人々が、舟島神社を創建されたのです。作家の司馬遼太郎さんは、「昔も今もそして、未来においても変わらぬものがある　そこに空気や水、土などという自然があって、人間は、自然によって生かされてきた人間は助け合って生きてきたのである」と述べられています。船島に先住された人々は、電気水道ガスといったライフラインもない状況のなかでの生活であったわけですから、その苦労がしのばれます。　しかしながら、その生活の心の支えとされたのが、舟島神社だったのではないでしょうか。慰霊祭には、京都府亀岡市のＮＰＯ法人武道和良久の前田比良聖先生をはじめ、北は宮城県仙台市、南は鹿児島県から、稽古人といわれる、お弟子さん含め二十五名による演武の奉納がございました。この武道和良久は、巌流佐々木小次郎剣客大人命の必殺技である燕返しの剣舞を伝承される方々です。

◇宮本武蔵との決闘の地であることから、「巌流島」と呼ばれるようなりましたが、「武蔵島」と呼ばなかったところに、御先

祖様方の「おくゆかしさ」、小次郎大人命の無念の思いを惜しむ、まさに、「惻隠の情」が込められていることに、いたく感動します。宮本武蔵は、兵法による、必勝を目指していました。兵法といえば、戦国時代に豊臣秀吉に仕えた竹中半兵衛（重治）がいましたが、竹中半兵衛は、「完璧な戦」を目指したといわれています。その「完璧な戦」とは、お味方が、一人も命を失うことなく勝つことだったそうですが、いわゆる、「策を弄した」わけです。策略であります。

したがって、宮本武蔵も、兵法に則り、小次郎大人命との戦いは、遅参しましたし、さらに、吉岡一門との戦いは、逆に、待ち伏せをしていました。入浴の時でさえも、湯船につからず立ったまま、臨戦態勢だったそうですから。宮本武蔵にとりましては、小次郎大人命は、生涯最大の敵であったといっても過言ではありません。　なぜならば、その後、宮本武蔵は、決闘を行っていません。　正々堂々と試合をして欲しかったと思うのは、私だけではないと思います。

実は、小次郎大人命は、冨田流でした。冨田流は、小太刀を使うのですが、小次郎大人命は、あえて、大太刀を使い、燕返しの必殺技を編み出すのです。まさしく、小次郎大人命は天才であったと思います。　この舟島祭には、私共が忘れてはならない、日本人の美質が込められていると思います。　それは、「衆知を集める、和を貴ぶ、主座を保つ」ということです。先住の人々は、知恵と工夫をこらして、生活をしたことでしょう。　小次郎大人命も、剣術の技を磨いたことでしょう。その為には、人々と仲良くしなければならなかったのです。和を大切にしたと思います。そして、その思いは、舟島神社例祭、慰霊祭を斎行される彦島自治連合会の皆さんに受け継がれています。もちろん、小次郎大人命の剣術は、武道和良久の人々にも、受け継がれているのです。　まさに、舟島神社ならびに厳流佐々木小次郎剣客大人命の「主座」が保たれているのです。

◇折節も、前述のとおり、春から夏へと移ろいますが、「思いやり、やさしさ」という「惻隠の情」を忘れずに、衆知を集め、創意工夫をしながら、和を尊び、神様御先祖様に手を合わせ、主座を保つという、敬神生活を心掛けたいものです。　御自愛ください。

◇四月祭典行事報告

▼月次祭

◆本宮　＊四月一日、十五日

◆貴布祢神社　＊四月一日

▼竹の子島金刀比羅宮例祭　＊四月七日

▼六連島荒神祭　＊四月九日

▼舟島祭　＊四月十三日

▼戦没者慰霊祭　＊四月十五日

◇四月宮司動静

▼神社関係団体

◆維蘇志会監査会。役員会　＊四月三日

◆敬神婦人会監査会役員会　＊四月五日

◆維蘇志会総会　＊四月十二日

▼神社庁関係

◆神社庁教化部代表者会議　＊四月四日

◆下関支部賀寿祝賀会　＊四月八日

◆山口県八幡宮会役員会　＊四月十八日

▼美祢社会復帰促進センター教誨師活動

◆入所時指導講話　＊四月二十五日

▼自治会、学校関係、その他

◆しものせき木鶏クラブ　＊四月一日

◆迫町自治会役員会　＊四月十日

◆迫町自治会総会　＊四月二十日